

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	shipfor発達支援		
○保護者評価実施期間	令和6年6月11日		令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○従業者評価実施期間	令和7年1月15日		令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	計画的に週案を作成し、プログラムの固定化を防ぎ、各活動の目的を明確にしている。	サービス後、児童の様子を振り返り情報共有している。今後の対応や次の目標について話し合い、共通認識を持ち支援している。また、週案を作ることで個々の目標の具体化や、児童の情緒に合わせて案の変更も行い、寄り添った支援を意識している。	今後も振り返りや話し合いの場を継続して行い、プログラムの工夫、レパートリーを増やしていく。また、同じレクリエーションでも、ルール変更や目的を変えて取り組む。
2	月に1度遠足行事を設け、様々な経験ができる。	屋内外、様々な場所を提案している。交通ルール・団体行動・外でのマナー・普段と異なった環境に触れる・在園での遠足行事に向けた練習を意識して行っている。	時には遠足先で災害練習を行う・地域交流ができる・イベントに参加する等の内容を取り入れていきたい。その都度、どんな目的をもって遠足を行うのか、より突き詰めていく。
3	法人内の認定こども園と定期的に交流会を開催している。	認定こども園の園児と交流会を通して、いろんな児童との関わりを持つことを意識している。季節行事にも参加し様々な経験ができる事を大切にしている。	交流会は、認定こども園の行事に合わせて月に1度開催しているが、児童によっては対象曜日ではなく参加できない月もある為、行事がなくても園庭で共に遊ぶなど関りの場を提供していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職が不在。	今年度、事業所が新規開所したばかりで利用者人数が定員に達しなかった。その為、人員配置基準を満たした配置のみで運営を行った。専門職員配置を検討することができなかった。	次年度は保護者のニーズに応えられるよう、専門職の配置に向けて人材採用を検討する。
2	在籍職員に障害福祉経験者が少なく、研修などで知識を深める機会が必要。また、研修で学んだことを、支援現場でどれだけいかせているか。	今年度は、法定研修などを中心に行ったことで、児童特性に対して知識を深める研修が少なかった。研修後、実際の支援現場を事例にした振り返りがなかった。また、振り返りの場で個々の意識確認ができていなかった。	障害特性知識を深めるための研修の開催や外部研修に積極的に参加する。研修で学んだことが実際の支援現場でいかせる場面があれば、振り返りで話し合う。
3			